

総合計画 特集号

広報 えびな

編集・発行
海老名市役所企画調整課

〒243-04
神奈川県海老名市国分155
☎ (0462) 31-2111



夢ふくらむ明日へ

市民アンケート

調査結果まとまる

二十一世紀に向けて、またまた未完成都市である海老名市を、一日も早く完成都市へつなぐ魅力のあるまちづくりのスタートが切られました。そのために、海老名市では、現在、その基本となる総合計画づくりがすすまっています。そこで市民の皆さんの意識を明らかにすることを目的として、市民アンケートを行いました。対象とした世帯は、三十一、二五〇世帯で、自治会などの協力を得て、配布・回収を行い、概ね調査対象の半数の一五、三六四世帯の方々に回答を頂きました。ここでは、主な概要に触れ、寄せられた市民の皆さんの意向がどのような特徴を帯び、その傾向や今後のまちづくりでのイメージなどを追ってみたいと思います。

回答者は

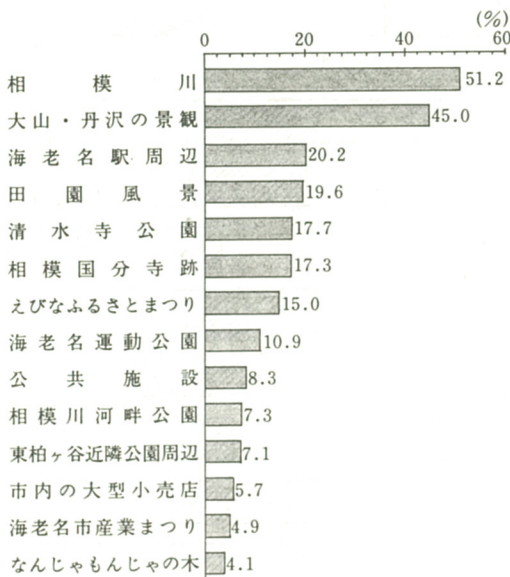
まず、回答者属性では、お客

とされています。さらに、現在の市内在住者の約九割が、海老名に転入された方々であるという傾向を示しています。ここでは新たな市民ニーズが生まれ、これに答え、よりよいまち

をつくるという方向性が何れ

また住宅形態では、持ち家地域とのかかわりの中で、定住意向としては「ずっと住むつもりである」と「できれば住みつづけたい」を合算すると六五・一％となり、十年前に比べ定住意向者の増加が見られます。これは、住みやすいまちづくりに対する一定評価が見られたと言えますが、反面、転出希望者の増加現象があることも見逃せません。

海老名らしさ



注) 複数回答のため、比率の合計は、100%にならない。

家のまわりは

家の周囲の環境については、全体的には「普通」といった評価となっており、中でも特に騒音・振動・悪臭等の不満が出ています。これに対して満足している周辺環境としては、「鉄道駅までの行きやすさ」や「周囲の景観等」が挙げられています。

海老名市のイメージは

海老名市のイメージでは、海老名らしきとして「相模川」が、次いで「大山・丹沢の景観」が多く、この二つは、すべての年代層から強い支持を受けています。また若い年代層では「海老

海老名市長

左藤 究



まじくくり

は共同作品

昨年九月に実施しました市民アンケートについては、お忙しい中にもかかわらず、約半数の世帯の皆さんから回答が寄せられました。誠にありがとうございます。早速集

かり、この方向づけを今後も大切にすすめていきたいと思ひます。中でも下水道と道路につきましては、さらに発展的事業展開はかされる重

計をいたしました。この、市政への貴重なご意見に触れることとなり、身がひきしまる思いでした。全体としては、皆さんが快適な生活を特に望んでいることがあらためてわ

点的な取り組みに思いを馳せました。また海老名らしさという点では、やはり相模川があげられました。春夏秋冬それぞれの季節において、相模川は私たちの生活に潤いを与えてくれるかけがえのない財産であり、この川を大切に守ってゆくことは皆さんの意向に添う近道との感も深ましました。

まちづくりは、市民の方々の共同作品でもありアンケート調査はその第一歩とも言えると思ひます。重ねてお礼申し上げます。

将来の姿は

将来像としては、公園や運動場などをふやし、余暇が過ごしやすい「快適生活都市」や、医療施設を増やし、きめ細かなサービスをする「医療福祉都市」が高支持を得て続いています。こういった将来像を描いている背景では、圧倒的に下水道の整備を強く望む重点施策分野が掲げられています。これらを支えた快適な生活を支える都市基盤の重要性が切実な願いとなつて表われていると考えられます。そういった中で今後の重点プロジェクトとして支持の高かった「人が安心して歩けるまちの整備」は、下水道整備に見られるような着実な事業の積み重ねといった取り組みに加えて、ここには渋滞解消や歩行者の安全性に留意した大胆な道路計画への強い視線が注がれていることが感じとれます。

すらく海老名を求めて

アンケート結果は語る

回答者の属性は

回答者は、前にも述べましたが、三十歳代から四十歳代の方が中心となっています。この調査が周辺環境や市政全般にわたっているため、教育や医療等に関する高い関心、しかも主婦の方の意見が目立っています。

海老名市をどう評価する

この調査では、現在の市内に居住者の約90%が、転入された方であるという数値を示しています。このため活力のある、いきいきとした街というイメージがある反面、ゆとりや落ち着いたイメージが求められています。前住地や市外への通勤・通学先としては、横浜がトップであり、首都圏への交通の便が利便性という点で、このイメージが移り住んだ理由となるほか、「手頃な家・土地があったから」という人口急増の背景にある住宅事情での移転も見えています。

定住意向と環境の評価は

市内に引きつづき住むつもりの方の定住意向は、十年前に比べ増えており、こうした住みやすさのイメージに対する一定の評価の裏面では、転出希望者の増加現象も見逃せません。特に相模谷地域が目立ちます。環境評価の項目を追って、不満足の回答の中には「騒音・振動」「道路の舗装」「文化活動・スポーツ施設の不足」をあげる人が多いです。

海老名市が進むべき方向は

市が今後重点的に取り組む施策では、下水道整備が特に求められています。また、年々増加している医療福祉、緑への要求が高まっていること、若い世代の活動ある商業都市への指向が強いこととされています。

心や

市民アンケート調査結果をみて

横浜国立大学教授 岸本 重陳
きしもと しげのぶ

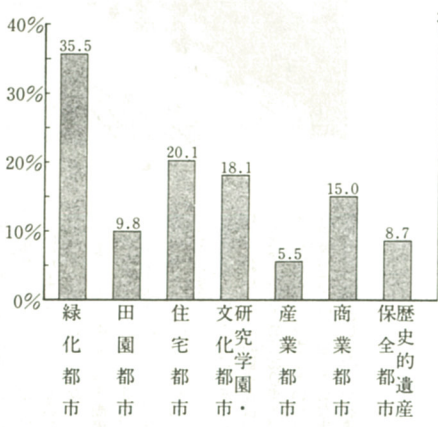


まず第一に注目したいのは、海老名市民が市の将来像をどう思い描いているかという点だ。

「快適生活都市」「医療福祉都市」「緑化都市」という三つのイメージが他の商業都市・「産業都市」などを断然上回って三傑とされる高さである。

この三つのイメージのうち、最も高いのは「緑化都市」である。選択肢が九個与えられていて、そのうち三つまでを選ぶとそのイメージが最も高い。そのイメージが最も高いのは「緑化都市」である。選択肢が九個与えられていて、そのうち三つまでを選ぶとそのイメージが最も高い。

図-2 海老名市の将来像



海老名の将来に 望まれるもの

門沢 橋 中島 幸子

昭和五十年に海老名の住民になり、もうすっかり、この地に慣れてしまっています。



柏ヶ谷 仲井和代

五十六年十月に交通の便の良さを考え転入して来ました。都心や横浜方面への交通は良いのですが、南北に広がる海老名市内の交通には大変不満を持っています。

活気のある海老名を求めて

五十一年十月に交通の便の良さを考え転入して来ました。都心や横浜方面への交通は良いのですが、南北に広がる海老名市内の交通には大変不満を持っています。



これがらの海老名☆私はいつか思い

今回の調査でも、居住の場としての整備が強調されました。そんな中で、管理面も踏まえ、これを支える安定した財政基盤をどう確保していくのか、これも重要な課題の一つです。市が安心して暮らせる道、整備が望まれます。また下水道整備も、自然をすく意味でも早急にして欲しいですね。



愛しい中都市への期待感

さつき町 田代義昭

横浜市から昭和四十八年に転入して参りました。当時四歳だった娘は、今では高校生に成長しました。



余暇の対応

若い人々からの支持を得た海老名の中心街づくりの具体的な方向性は、商店街の形成にあります。とりわけ、楽しみながら買物をするまちづくりが、各世代共通の要請となっています。また、公園や広場を求め、人々が多くなっている。これに対し、現実問題として、鉄道での通勤・通学者の駅までのアクセスを改善する条件としての、駐車場整備が求められています。



余暇の対応

計画は大きな目標と、近い将来の内外から海老名市を呼びかけられるような自然と人工の調和した「愛（いと）しい中都市」ができれば、第一の原動力が実現に移されていくことになる。

余暇の対応

計画は大きな目標と、近い将来の内外から海老名市を呼びかけられるような自然と人工の調和した「愛（いと）しい中都市」ができれば、第一の原動力が実現に移されていくことになる。



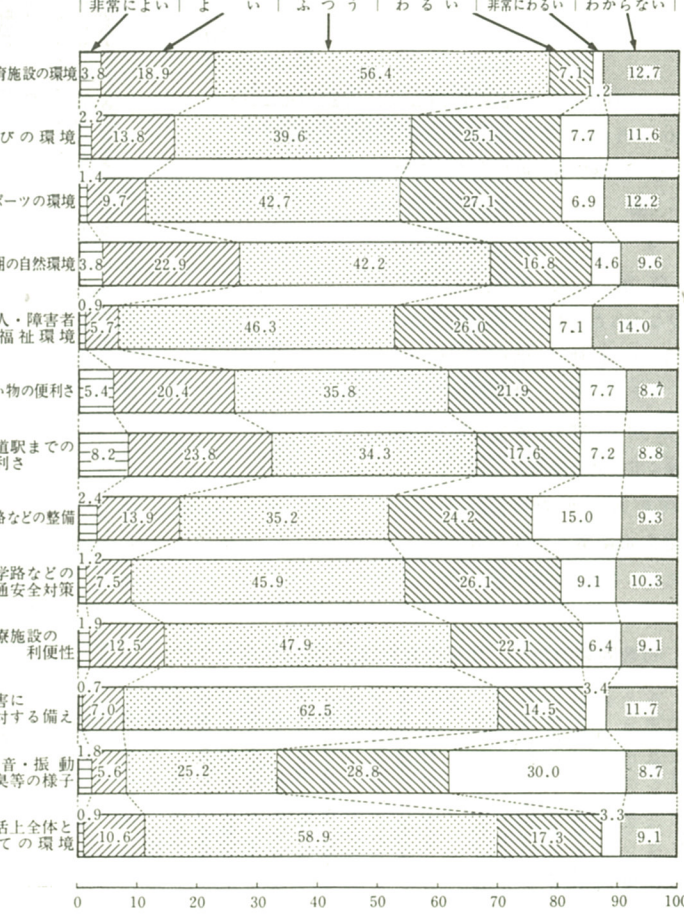
魅力ある高齢化社会を

こうした中で、高齢化については、年をとっても仕事を続けたい人や、趣味や学習を求めている人が多く、昔からの子



められ、快適生活の支えとなる都市基盤の整備は最優先の課題となっています。

図-1 家の周囲の環境評価



魅力ある高齢化社会を

こうした中で、高齢化については、年をとっても仕事を続けたい人や、趣味や学習を求めている人が多く、昔からの子

活力のある中心市街地を

海老名市が最も支持を得た「相模川」では、河川の水質が何より求められています。その中でも、今の姿をどう維持し、自然環境を四十歳代以上に多く、緑地整備などの積極的な取り組みが求められています。近郊農業としての活用や身近な緑地としての保護を支持する人々が、工業・商業による開発を求める人々を上回っています。海老名市は、いっしょに風土を残すため積極的な施策展開の必要性を提示されたいと思います。

相模川を守っていききたい

海老名市が最も支持を得た「相模川」では、河川の水質が何より求められています。その中でも、今の姿をどう維持し、自然環境を四十歳代以上に多く、緑地整備などの積極的な取り組みが求められています。近郊農業としての活用や身近な緑地としての保護を支持する人々が、工業・商業による開発を求める人々を上回っています。海老名市は、いっしょに風土を残すため積極的な施策展開の必要性を提示されたいと思います。



▲ かつろぎとやすらぎの空間

快適な都市をめざして

総合計画策定のあらまし

青年都市えびなに住む市民は、快適な生活を第一に求めています。今回の市民意識調査にもあらわれたように、市民の考え方は、ゆとりの時代を反映して、豊かな緑と快適性の高いまちづくりが大切と考えています。市では、このような市民ニーズに十分応えたいと考えております。そのために、現在の総合計画の成果をふまえ、課題を整理し、平成三年度からスタートする、新しい総合計画を作成中です。この二十一世紀をめざした、この計画の概要について紹介します。

総合計画と市政

総合計画とは、一口に「市の基本的方針を定めたもの」ということができます。いわば「市の進むべき道」にあたるものでもあります。この計画は、まず何よりも市民の皆さんの意識や提言を反映させながら、市においていくことになるのです。

それだけに、この計画をつくることは、市民の皆さんにとっても、市にとっても大切なこととなります。

ところで、このような総合計画は、これまで、十年間を対象期間としてつくられてきました。海老名市にとって、はじめての総合計画は、昭和四十六年に「海老名市総合計画」となって生まれ、昭和五十六年から十年間と区切られました。

構成と性格

新しい総合計画は、次のような構成となる予定です(図参照)。この計画の基本的な骨組みとなる一構想部分は、すでにお話しましたように、二十年をみながつくりあげようとするものとなっております。その中で、時代潮流をどうえながら、今後のまちづくりをすすめていくための、基本的な考え方を示してまいりたいと思います。

今回のアンケートにもあらわれたとおり、市民の皆さんは、快適な生活を求めています。また、海老名のシンボルというべき相模川についても、大切な市民共有の財産としての保全を求めています。そして、快適なまち

海老名市のあゆみ

- | | |
|-------|--------------------|
| 昭和46年 | 海老名市誕生 |
| | 海老名市総合計画策定 |
| 47年 | 市の木(つげ)、市の花(さつき)制定 |
| 48年 | 新海老名駅業務開始 |
| 50年 | 相模線さがみ野駅、かしわ駅開設 |
| 51年 | 第1回「えびなふるさとまつり」開催 |
| 53年 | 公共下水道供用開始 |
| 55年 | 文化会館、中央公民館開館 |
| 56年 | 第2次総合計画策定 |
| 57年 | 厚木電報電話局海老名分局開設 |
| 58年 | 海老名郵便局開局 |
| 60年 | 図書館、教育センター開館 |
| 62年 | 国鉄相模線「海老名駅」開設 |
| 63年 | 市人口10万人を超える |

平成3年 (仮称)第3次総合計画策定(予定)

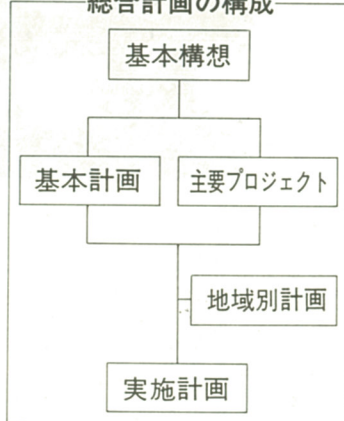
計画の特徴

事業をすすめるための実施計画があります。総合計画は、このように三つの重なり方をした構成となっております。

新しい総合計画をつくるにあたっては、時代の流れをくみとつていく必要があるものと思われ、今、人々は、物質的な豊かさに加え、ゆとりや精神的な豊かさを求めるようになってきています。単に道路を舗装するばかりでなく、景観に配慮した公共施設を建設するように希望しています。そこで、これまでのように、道路だけ、あるいは、下水道だけといった個別の事業はかりでなく、各部門の内容をとりこんで「一体化した形で」プロジェクトをつくり、海老名のまちづくりを強調した事業にしたいと思っています。

これまでは、下水道、図書館、道路、公園等の都市基盤の整備を達成目標として努力してきたところですが、今後は、二十一世紀を見据えた夢多い計画をつくっていかねば、と思っております。

別図 総合計画の構成



スケジュール

これまでは、市役所の内部において、職員全体が何らかの形で総合計画づくりに参加する体制をとってきました。その結果、今年度の春頃には、新しい総合計画の素案がまとまることとなります。その後、市民の方々と学識経験者によって構成された、総合計画審議会において、およそ一年をかけて慎重に審議して、市民の皆さんには、市民集會などで、活発な議論をかわして頂き、市民参加を深めることで、より一層の市政の公開性を高めてもらえればと願っております。

今後とも、市民の皆さんのご協力、ご支援をお願いいたします。

【企画調整課】



▲ 明日への躍動